

調査報告書

- 1 とき：2012年4月19日
- 2 行先：名東区よもぎ台 ピースあいち
- 3 参加者：わしの恵子、山口清明、政務調査補助員（浜田）
- 4 主な内容
 - ・ NPO平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会が設置・運営している戦争と平和の資料館ピースあいちをたずね、特別展の「震災と平和＝東南海・三河そして東日本大震災」及び常設展示を見学するとともに、事務局次長の竹内宏一氏、語り手の会事務局長の竹川日出男氏から、運営や展示の課題などについてお話をうかがった。
 - ▶ 本来、市と県が共同で設立する予定だった戦争資料館が財政難を理由に建設されない現状の下でピースあいちは、市民がつくりあげた戦争と平和に関する博物館として貴重な存在となっている。
 - ▶ 常設展示として、「戦時下の暮らし」や「愛知県下の空襲」にとどまらず、「戦争の全体像・15年戦争」と「現代の戦争と平和」についても積極的な展示がされている。南京事件についても当然のように写真やパネルで紹介されており、被害と加害、反戦と平和についても総合的な展示が工夫されている。
 - ▶ 小中学校にも案内を出しており、課外授業で来る学校も増えてきている。また学校などへの戦争体験の語り手派遣、戦争体験の聞き取り保存活動にも積極的だ。
 - ▶ 法人としては国から認定NPOとして認証を受け、施設としても2010年8月に博物館法にもとづく博物館相当施設として県から認定されたということであった。
 - ▶ しかし名古屋市に博物館として、固定資産税（年間約130万円、施設運営費が年間約900万円なので固定資産税はたいへん重い）の減免をお願いしたが、河村市長からは良い返事がいただけなかった。市長は国会議員時代にいちど見学にきており、要請に行った時には、いきなり「南京の展示があるからな・・・」と言ったような言葉が飛び出し、減免に理解を示してくれなかった、ということであった。
 - 博物館への固定資産税の減免がほんとうに適用できないのか、政治的な理由で拒否したとしたら問題だ。あらためて調査し減免適用を市に働きかける必要がある。